

## 『スタート！クリスチャンライフ』リョウリョウ

この本を手にとり、ページをめくっておられるということは、あなたは、最近イエスさまを信じたのできたのでしょうか。あるいは、洗礼を受けようと心に決めたばかりかもしれない。どちらにしても、あなたを心から祝福いたします。あなたの決断は、あなたの人生に、さらには永遠に至るまで、最も大きく、すばらしい影響を与えるものだからです。

しかし、まだゴールではありません。あなたのクリスチャンライフはスタートしたばかりです。子どもが、親や先生に教えられ、兄弟や友達ちといっしょにいる中で、人としてのものの見方や考え方、ことばや態度、優先すべきことを学ぶように、イエスさまを信じる生活についても学ぶ

ことが必要で、学んで身につけていくものです。そのために良い手引書は有益です。

私たちの教団には、『クリスチャン生活のしおり』（吉山宏著）というロングセラーがあります。1968年発行以来50年以上、何度も版を重ね、多くのクリスチャンたちの学びを助けてきました。この『クリスチャン生活のしおり』も参考にしつつ、時代と社会の変化に合わせたクリスチャンライフの手引書として、このたび『スタート！クリスチャンライフ』を発行することになりました。前半の基本編では、聖書に基づいて、何を信じるべきか簡潔に記されています。後半の実践編では、信仰に基づき聖霊に導かれて、どのように生活したらよいか、Q & A形式でわかりやすく書かれています。個人で学ぶのはもちろんのこと、教会での洗礼準備の学びや家庭集会、セルグループなどで活用していただければ幸いです。

です。なお、聖書は新改訳2017を用いています。

今始まったあなたのクリスチャンライフは、偉大な神のご計画が実現する舞台となっていくでしょう。多くの人をイエスさまに導く魅力に満ちていくでしょう。なぜなら、神がそのことを願い、恵みによってあなたを救ってくださったからです。

この手引書が、あなたのクリスチャンライフの助けとなることを祈りつつ、喜ばしきスタートに心からのエールを送ります。

教団理事・企画室長 野口一郎

2020年4月29日 教団創立記念日

## 目次

『スタート！クリスチャンライフ』によるイエ	3
◆基本編	13
はじめに	15
一、神	16
1 天地を創造した神	18
2 生命の源としての神	20
3 私たちを愛してくださる神	22
二、罪	24
1 原罪 (SIN)	25
2 心と言葉の罪 sins	35
3 行いの罪	36
4 罪の結果	37
三、救い	40
四、これから起ること	52
五、教会	56
1 一人ひとりが大切	60
2 一人ひとりが責任を持っている	61
3 一人ひとりが異なる	62
4 みんなで一つ	63
5 みんなで補い合う	64
六、聖霊のバプテスマについて	66

◆ 実践編	69
一、信仰生活の原則	70
1 聖書を読む	71
2 祈る	73
3 礼拝に出席する	75
4 奉仕する	76
5 交わりをもつ	77
6 伝道する	78
7 献金する	79
二、教会生活・信仰生活	82
A. 洗礼	82
B. 礼拝	84
C. 奉仕	87
D. 交わり	89
E. 献金	93
F. 祈り	96
G. お金の扱い	98
三、恋愛・結婚	102
A. 交際	102
B. 結婚	104
C. 離婚	107
四、家庭	110

A. 夫婦	110
B. 子育て	112
C. 家族の救い	115
五、仕事	118
A. 職業選択	118
B. 仕事上のこと	119
六、葬儀・墓	124
七、教会間のことで	130
A. 教会をかわること	130
B. 他の教会との関係	132
八、その他	134



# 基本編

## はじめに

言うまでもなく、キリスト教は世界三大宗教の一つとされ、世界に20億人の信仰者（カトリック・プロテスタントを合わせて）を持つ宗教です。音楽や絵画、あるいは政治、教育、福祉など、人間社会に与えている影響も大きなものです。

しかし「では、キリスト教の教えの根本的なところは何でしょうか？」と問われると、明確に答えることができない人もいるかもしれません。

これから、キリスト教信仰の核心ともいべき土台をみていきましょう。私たちクリスチャンは、一時的な感情によってではなく、確かな確信に基づいてイエス・キリストを救い主と信じています。なぜ私たちにはイエスさまが必要なのか。どうして「イエス・キリストを信じる信仰によって救われている」ということができるのか、「一緒に考えてまいりましょう。」

## 一、神



世界中に存在する多くの宗教の中で、私たちクリスチャンは聖書が教える神を信じています。聖書はとても不思議な本です。全部で66の書（キリスト誕生以前に書かれた旧約聖書が39巻、キリスト誕生以後に書かれた新約聖書が27巻）がまとめられて1つとなっているのですが、書き始められてから完成まで1000年以上（前1400年頃から後100年頃まで）かかっています。当然のことながら、書いた人も一人ではなく、何人もいます（40人くらいと言われています）。書いた人たちの生きてい

た時代や環境、そして職業（王もいれば漁師、医者、羊飼いなど）もバラバラです。もちろん、彼らが一堂に集まって「どんな本を書こうか」と話し合ったはずありません。それなのに聖書は、最初から最後までテーマが一貫しているのです。私たちは聖書の本当の執筆者は神ご自身であると信じています。

**聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。**

テモテへの手紙第一 3・16

では聖書の教える神にはどのような特徴があるのでしょうか。いくつかのポイントに分けて考えてみましょう。



## 1 天地を創造した神

私たちの信じる神は、天にあるもの地にあるもの、すべてを造られた神です。

はじめに神が天と地を創造された。

創世記 1・1

聖書の最初の書物、創世記には、神が天地万物を創造された様子が記録されています。一日目に光とやみを分けられ、二日目に空と水を分けられました。三日目には水と乾いたところを分けられ、水の部分を海とされました。そして陸には植物を造られました。四日目は、太陽、月、星を天に置かれました。五日目は、海の生き物と、空の鳥を造られました。そして六日目には、まず野の獣、家畜などの動物が造られ、そしてその後人間が造られました。

神は天地の創造主です。世界の宗教の中には、自然を恐れ、それを神とする宗教があります。自然の雄大さ、大きな山や、滝や、川などは、まさに人間がどれほどちっぽけな存在であるかを私たちに教え、また太陽にしろ、雨にしろ、自然の恵みによって作物が育ち、人間も生かされていることを知ることは大切なことです。しかし神が造ったもの（太陽、月、星、山など）を神とすることはできません。それらの自然を造られた神ご自身を神としなければなりません。

パウロはこのように書いています。

神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。　ローマ人への手紙 1・20

クリスチャンになった方はぜひ、次はこの「聖霊のバプテスマ」の体験を求めてください。主イエスは「天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。」(ルカ11・13)と約束してくださいました。この体験を通して、きつと信仰がさらに大胆になり、祈ることが自然になり、礼拝でもっと聖霊を感じるようになり、イエスをまをあかすること、奉仕することが喜びになります。

◆ 実践編

## 一、信仰生活の原則



主イエス・キリストを信じますとクリスチャンになります。良いわけではなく、そこからの成長が必要だということは誰もがわかっています。赤ちゃんが成長して大人になっていくように、クリスチャンも成長していく必要があります（参照：ヘブル5・12、1ペテロ2・2）。

そこで、よく言われる信仰生活の原則を実行することが大事です。良い習慣を身に付けてこそ、神に喜ばれるクリスチャンとして成長します。で

は、どのようなことを習慣化したら良いのでしょうか。

- 1 聖書を読む
  - 2 祈る
  - 3 礼拝に出席する
  - 4 奉仕する
  - 5 交わりをもつ
  - 6 伝道する
  - 7 献金する
- などです。

### 1 聖書を読む

聖書は神の言葉です。私たちは神のお考え、ご計画を聞かずして良い

人生は送れません。一気に聖書を読むのも、もちろんすばらしいですが、毎日読むことが大事です。人はパンだけで生きるのではなく、神の言葉で生きるからです（マタイ4・4）。

聖書にはわかりやすい箇所もあれば、難解な箇所もあります。読んでいるだけではわからないところがあるかと思えます。わからないところは飛ばして、ひとまず聖書を通して読むことをお勧めします。しかし、聖書辞典や訳注付聖書、あるいは別訳の聖書などを使って理解を深めることや牧師に聞くことも良いでしょう。何度も読んで、礼拝説教を聞いていくと理解が深まります。近頃は、聖書に関するアプリもあり、パソコンやスマートフォンなどでも読むことができます。

また読むだけでなく、その御言葉を通して、神が自分にどのようなように語っておられるかを思いめぐらすことが大事です。

## 2 祈る

祈ることができるのは人間だけです。祈りは神と私たち人間が交流していくために与えられたすばらしい賜物です。神は私たちが祈ることを求めておられます。どれくらい祈るのかと言えば、「絶えず祈りなさい」（テサロニケ5・17）と語られているほどです。

祈りの内容は、まず「天のお父様」と呼びかけ、神をほめたたえ、神からの恵みに感謝し、罪の悔い改めをしたり、願ったり、他者のためにとりなすなど、様々です。イエス・キリストによって私たちは父なる神に祈ることができるようになりましたので、最後に「主イエス・キリストのお名前によってお祈りします」と結びます。

私たちは様々な誘惑にあいますが、主の祈りに「我らをこころみにあわせず、悪より救いくださいたまえ」とありますように、祈りによって誘惑に打ち勝つこともできるのです。イエス・キリストが悪魔の誘惑にあ